

令和5年度白石市総合計画・総合戦略推進委員会

1 開催概要

- 日時 令和5年9月25日（月）午後1時30分～午後3時10分
- 場所 白石市防災センター2階 会議室

2 委員

	区分	団体等名称・役職	氏名	出欠
1	産業	白石商工会議所会頭	朝倉 秀雄	
2	産業	白石市産業振興会議代表	佐藤 全	欠席
3	産業	白石市観光協会長	佐藤 善一	
4	産業	白石市認定農業者	志村 竜生	
5	教育	公立大学法人宮城大学事業構想学群教授	徳永 幸之	
6	教育	白石市教育委員会教育長	半沢 芳典	
7	金融	七十七銀行白石支店長	川村 誠一	欠席
8	金融	仙南信用金庫業務推進部業務推進課調査役	伊藤 哲也	
9	労働団体	連合宮城仙南地域協議会白石地区会議事務局長	木村 仁彦	欠席
10	メディア	一般社団法人スポーツ・ラボ理事長	児玉 聡	
11	士業	中小企業診断士	佐藤 勝幸	欠席
12	議会	白石市議会議員	佐藤 秀行	
13	学識経験	白石市歴史文化アドバイザー	麻生菜穂美	欠席
14	学識経験	プランニング開代表・アトリエ自遊楽校主宰	新田新一郎	
15	学識経験	白石市移住交流コーディネーター	太斎 沙織	
16	地域組織	白石市自治会連合会長	紺野 澄雄	
17	地域組織	斎川公民館事務長	佐藤 幸枝	
18	子育て	白石刈田地区父母教師会連合会長	柴田 憲一	
19	子育て	子育て世代	大石 知子	

3 白石市出席者

	役職	氏名
1	市長	山田 裕一
2	副市長	菊地 正昭
3	総務部長	遠藤 輝雄
4	総務部企画政策課長	毛利 春樹
5	総務部企画政策課長補佐	岡崎 祐也
6	総務部企画政策課	齋藤 将大
7	総務部企画政策課	太齋 恭兵

4 配布資料

(事前配布)

- ・ 次第・名簿・委員会の役割
- ・ 資料1 第六次白石市総合計画・白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略
令和4年度実施状況
- ・ 資料2 第六次白石市総合計画 重点戦略・分野目標別指標 評価一覧
- ・ 資料3 市民アンケート結果
- ・ 資料4 転入者アンケート集計結果
- ・ 資料5 転出者アンケート集計結果
- ・ 資料6 令和5年度の主な取組

(参考)

- ・ 第六次白石市総合計画・白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略の概要
- ・ 白石市総合計画・総合戦略推進委員会設置要綱
- ・ 白石市総合計画・総合戦略推進委員会 事前意見と市の考え
- ・ 仙台南部工業団地エントリー企業募集

5 議事概要

○市長挨拶

本市では、令和3年4月に、今後10年間の本市の目指す将来像とまちづくりの方向性についての指針となる「第六次白石市総合計画」を策定。また、同時期に、地方創生・人口減少対策に重点を置いた「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」を策定し、計画に掲げる目標達成に向けて、様々な事業を展開しているところである。

計画の進捗状況の確認と成果の検証を行うため、「白石市総合計画・総合戦略推進委員会」を設置し、本日は、令和4年度の実績等をご審議いただくこととしている。委員の皆様におかれましては、専門的知見をはじめ、普段の生活から感じていることなど、様々な角度からご提案、ご意見を賜りたい。

人口減少を克服することはかなり大変なことである。加えて、少子高齢化は、様々な分野の担い手となる方々の不足にもつながり、私たち行政だけでは解決できない課題が多く、様々な方々と連携していかなければならない。

豊かな自然、育まれてきた歴史・文化、恵まれた交通環境など、白石市が持つポテンシャルを活かし、そして、(仮称)白石中央スマートインターチェンジとその周辺整備を本市の活性化のチャンスととらえ、市民、企業、行政等が一丸となって、市の発展に取り組んでいけるよう、皆様のお力をお貸しいただきたい。本日は忌憚のないご意見を賜りたい。

○審議

(1)「第六次白石市総合計画」「白石市まち・ひと・しごと創生第2期総合戦略」の概要及び白石市総合計画・総合戦略推進委員会の役割について

事務局より、次第資料をもとに説明。

⇒質疑なし

(2)令和4年度実施状況及び令和5年度取組について

事務局より、令和4年度実施状況は資料1・2、市民アンケート結果は資料3、転入者アンケートは資料4、転出者アンケートは資料5、令和5年度取組は資料6をもとに説明。また、委員からの事前意見と市の考えを配布。

【委員からのご意見等】

- 白石市が持続的に発展していくため非常に重要な位置づけの会議。総合計画並びに総合戦略が順調に進んでいるのか、社会情勢が変化している中、見直しが必要な点があるのか、しっかり委員の皆さんからご意見をいただき、推進を加速していけるような会議としたい。
- 委員からの事前意見と市の考えが配布されたが、事前に送付されていれば、よりよい議論ができたのではないかと。
⇒事前意見締切日以後も委員の方からご意見をいただき、市の考えをまとめ、本日配布させていただいたが、来年度からは、事前意見締切日をもう少し早めに設定し、締切日までいただいた意見に対する市の考えを事前送付させていただく。
- アンケート項目に防災や防犯関係の質問があまりないが、市民の関心が少ないからなのか。防災は生命財産が失われることにつながることから、将来を見据えて、アンケートに盛り込む考えはあるのか。
⇒今回のアンケートは、子育て支援、スマートインターチェンジの整備など、これまで市民から意見が寄せられた関心の高い項目を中心に実施したが、来年度以降の質問項目に加えるかについては、検討してまいりたい。
- 市民アンケート調査結果では、教育に対する評価が数字に表れている。全国学力・学習状況調査の平均正答率は、白石市は県平均よりも上で、教育改革の成果。全国と対比するだけでなく、県と対比した結果も広く知っていただくなど、情報発信を強化すれ

ば、子育て中のお母さんたちが白石市を選んでくれるのではないかと。

また、転出者アンケートでは、「事情が許すのであれば、白石市に戻りたいですか」の問いに対し、戻りたい割合が非常に多い。どうすれば戻るかを調査すれば、対策を講じることができるのではないかと。

加えて、様々な市や町の委員になっているが、人口減少や活気がなくなっている中、アンケート調査を実施すると、右肩下がりであるが、白石市の市民アンケート調査結果は、前回よりも評価が上がっているところがポイント。白石市が変わっていると感じていることがこの成果につながっている。しかし、白石市は情報発信力が弱い。白石市はこんなにすばらしいということを発信すべきである。

⇒これまで教育改革に取り組んできた成果が数字に表れている。学力だけ伸ばすのではなく、幼児教育、非認知能力の向上にも積極果敢に取り組んできた。さらなる教育改革を進めていきながら、誰一人取り残さない環境を目指すとともに、幼児教育の中でも、キッズランドをはじめ、子どもたちが元気にたくましく、自ら考え、生きる力を育む、そういった幼児教育もさらなる充実に努める。本年4月から地域活性化起業人制度を活用し、民間企業から起業人の派遣を受けているが、情報発信不足解決に向けた提案も得ている。今後、さらに市民の皆さん、市外の皆さんにも様々な施策等が発信できるよう最大限努めていく。

○ 認知能力は教科の勉強、それ以外が非認知能力で、最後までがんばる力、自己肯定感、自己有用感、ここに注目している。その数字が全国平均を超え上がっている。ここに力を入れながら、学力向上につなげていく。また、学力調査結果は、県平均を超えているので、どのように知っていただき、アピールしていくのかについては、大きな課題だと思っている。

○ 子どもが3人いるが、学力が上がっているのを実感している。学業も大事であるが、スポーツの推進も大事と感じている。生涯学習・スポーツの推進の中に「(仮称)白石市総合型地域スポーツクラブ」の活動支援とあるが、どのような状況なのか。

⇒本年3月「白石市総合型地域スポーツクラブ」を結成した。学校体育と生涯スポーツを地域全体で盛り上げていこうというもので、名称にクラブとついているが、競合する団体ではない。スポーツ協会やスポーツ少年団が構成メンバーになっていて、今後、部活動の地域移行もこの組織を母体とし、様々な団体と協力しながら進めていきたい。

○ スマートインターや周辺整備は、白石市が今後、命をかけて取り組まなければならないテーマだと感じる。委員からの事前意見に対する市の考えでは、市長のトップセールスという言葉があるが、様々な段階があって最後にトップセールスではないか。また、先進地の事例を参考にどのように整備を進めていくのか。さらに、企業誘致を県にお願いするという姿勢だけでよいのか。

⇒スマートインターチェンジの整備は大きな起爆剤で、最大限の効果をいかに発揮していくのが重要だと考えている。企業誘致は、交渉事になるため、段階を踏んで進めているが、県主催の企業立地セミナーには、私自身が参加し、優位性をPRするとともに、本社訪問を行うなど、トップセールスを行っていることから、市の考えとして示した。交渉事のため、事前公表はできないが、これからも段階を踏んで交渉を行うとともに、県

産業立地推進課に職員を派遣していることから、様々な情報を得ながら、企業誘致につながるよう努めてまいりたい。

- 重点戦略・分野目標別指標一覧では、達成率が90%以上の項目や100%の項目もあり、これは、行政と地域の皆さんの努力の賜物と感じる。

がん検診受診率は、コロナ前は各地区で検診を行っていたが、コロナ禍でホワイトキューブに集約した記憶。これにより、コロナ前後の受診率に違いはあったのか。

⇒担当課に確認し、おって回答する。

<追加回答>

各地区で検診を行っていた実績とホワイトキューブに集約した実績について、令和元年度から令和4年度までを比較すると、会場の変更が原因と思われる受診率の大きな変化はなかった。

- 地区の高齢者からホワイトキューブまでの交通手段がないとの声がある。各地区で検診できていた時の方が、受診率が上がるのであれば、交通手段の確保を考えてはどうか。

いつまでも健康で長生きできれば、社会保障費の削減にも繋がると思う。

⇒早期発見、早期治療によって、市民の皆さんが住み慣れた地域で安心して生活ができることは、大変重要である。交通手段の確保については、今後の大きな地域公共交通も含めた課題であることから、今後も検討してまいりたい。

- 企業誘致は、具体的にどういう産業を誘致したいという考えはあるのか。

⇒製造業、高度電子産業、食品産業など、新たな雇用の創出につながればと考え、そういった企業にアプローチしている。また、2024年問題。300キロが目安でドライバーを交代することになるが、東京から青森まで600キロの中間地が白石市。物流関係から多くのアプローチもあるが、一番重要なのは、そこでどのくらい多くの雇用が生まれるかと考えている。

- 令和5年7月からの産後ケア事業の利用状況と里帰り出産の対応について伺う。

⇒産後ケア事業は、産後のお母さんや赤ちゃんをサポートする事業で、産後の体調管理と育児のサポートを受けることができる事業である。また、里帰り出産の対応は、刈田病院をお産ができる病院に復活したいと考えているが、現在は、他市で出産されたお母さん方が子育てをする上で、心配事や困り事があれば、相談できる体制をとっている。

利用状況は、担当課に確認し、おって回答する。

<追加回答>

産後ケア事業は、出産後、概ね1年の母子を対象に、心身のケアや育児のサポートを行うことを目的に、産後ケア事業を実施している事業所などに業務を委託しており、本年7月の事業開始からの利用件数は1件となっている。

- 福祉課や長寿課がある総合福祉センターは、ハンディキャップがある方が利用するには大変な場所にあり、市中心部にあればと思う。

⇒昭和48年竣工の市庁舎はかなり手狭で老朽化している、建て替えの際は、一つの建物の中に集約したいと考えている。

- 各分野目標の事業は、他の事業にも影響していると思う。関係課でそういった意識をもって取り組んでほしい。また、スマートインターは中間点ということで、単に引き継

ぎだけではなく、東北の荷物を積み替えて、東京や関西に届ける機能を持った施設になれば、一つの産業になるのではと思う。

本日言い切れなかった意見は、事務局にお伝えいただきたい。

(3) その他

事務局より、本日の内容について、10月中を目標に市のホームページ等に実施状況等を公表する予定であることを説明。

○市長挨拶

長時間にわたり、数多くの貴重なご意見等を賜り感謝申し上げます。

本日いただいた数々のご意見は庁内で協議をさせていただく。また、ホームページ等で、今後どのように意見を反映していくのかというところも、しっかりと発信してまいりたい。

様々なご意見・ご提案をどのように政策に結び付けていくかが、私たちに求められているところと認識している。「第六次白石市総合計画」に掲げる「人と地域が輝き、ともに新しい価値を創造するまち しろいし」の実現に向けて、皆様と連携しながら、邁進してまいりたい。

(以上で閉会)